

英語会話モジュールと CEFR の関連づけの 試み

工藤 洋路

(東京外国語大学大学院博士後期課程)

はじめに

本稿の目的は、TUFUS 言語モジュールの英語会話モジュール内の会話文に対して、Council of Europe が開発した Common European Framework of Reference for Languages (以下、CEFR) の枠組みを用いて、レベル分けを試みることである。TUFUS 言語モジュールの会話モジュールは、言語機能の観点で開発され、現段階では、各会話のレベルが設定されていない。CEFR の枠組みの記述の中にも、言語機能の観点がいわれていることから、CEFR と TUFUS 言語モジュールを関連づけ、CEFR の基準で TUFUS 言語モジュールのレベルを設定する意義は高いと思われる。

1. 英語会話モジュールの概要

会話モジュール(またはDモジュール)とは、TUFUS 言語モジュールの4つの「モジュール」のうちの1つであり、スキットを素材とした日常会話の教材である。また、動画・音声も利用したマルチメディア教材である(阿部, 2004)。各言語の会話モジュールでは、40の言語機能を設定し、それぞれの機能を実現しているキーセンテンスを中心に10文程度の会話を1つのユニットとしている。1つのユニットでは1つの言語機能が主な学習テーマとなっており、その機能を果たすキーセンテンスが1つのユニットに通常2~3文含まれている。英語会話モジュールでは、総例文数は577文であり、そのうち、キーセンテンスは、重複しているものを省くと84文である。

2. TUFUS 言語モジュールのレベル設定に向けての CEFR 再考察

CEFR は、ヨーロッパの言語教育シラバスや教材などの開発のための一般的共通基盤を作成する目的で開発されたものであり、欧州全土での言語政策の基盤となっている。言い換えれば、多言語、多民族への適用を意図しているため、日本語で言語を学習している学習者への応用可能性を探索する意義が認められる(工藤他, 2006)。

CEFR は6段階のレベル(A1, A2, B1, B2, C1, C2)を設定しており、can-do statementsを用いての能力記述も行われている。各レベルの能力記述を概観すると、本研究で対象としている TUFUS 言語モジュールの会話モジュールの各文は、概ね A1 から B1 にレベルづけされることが予測される。その理由として、英語も含む TUFUS 会話モジュールが対象とする学習者は、その言語の初級者であることが挙げられる。各言語のモジュールの共通性

を維持するために、設定されている言語機能やその数、または会話の長さなどもほぼ共通となっていることから、結果的に、各会話ユニットの難易度についても、言語間で大きな差はないことが想定される。従って、CEFR において Basic User と規定されている A1 と A2 が、TUFSS 会話モジュールのレベルと推測されるであろう。ただし、CEFR が個別言語を対象としている枠組みでないことから、本研究では、少し幅を持たせる意味で、A1 から B1 の範囲内に、TUFSS 言語モジュールのレベルを想定し、レベル分類を試みることにする。レベル分けの作業を行う際には、CEFR が個別言語を対象としている枠組みでないことを考慮し、CEFR の枠組みに記述されていない視点も取り入れる必要性が生じることも予測する必要がある。その際には、レベル設定の基準がなるべく客観性を帯びるように注意を払うこととする。

3. レベル分析

3-1. 分析方法

- ① CEFR に関する資料から、A1, A2, B1 の各レベルに該当する項目を絞り出し、会話モジュールのレベル分けの際の基準とする。
- ② 各キーセンテンスに関して、①で搾り出された基準をもとに、レベル分けを行う。その後、その基準だけでは判定できないキーセンテンスがあれば、別の基準から再度レベルづけを行う。

3-2. 分析対象

レベル分析の対象は各機能を実現しているキーセンテンス 84 文とする。TUFSS 言語会話モジュールは、1つのユニットが 10 文程度から成る会話であるが、ユニット全体を分類対象とするのではなく、本研究では、キーセンテンスのみを分類対象とする。本研究は、TUFSS 言語モジュールと CEFR の関連づけについての初期研究であり、現段階は、その関連づけの試みの段階であること、そして、同じ言語機能でも、センテンスレベルだけでも、複数のレベルづけが可能であり、作業が複雑化することが想定されることなどから、会話ユニット全体のレベル分類までは、本研究では扱わないこととする。

3-3. 分析基準の設定

CEFR の A1, A2, B1 の各レベルを判定する基準の設定については、Council of Europe (2001) や Little and Simpson (2004) などの CEFR に関する資料を参照し、各レベルに当てはまる項目を抜き出した。その結果、本研究で利用可能なレベル分けの基準となる観点が、以下のようにまとめられた。

A1 レベル

- ・ 自身のこと / 身近なこと / その場の必要性
- ・ 知人, 所有物, 買い物, 郵便局, 銀行, 基本的な単語, 定型表現
- ・ 数, 質, 価格, 時間を扱える, 特定の具体的な状況で, 基本的な単語, 言い回しのレパー

トリーを持つ

A2 レベル

- 確認要求する / 指示を要求, 与える / 価格をたずねる, 買い物する / 食事の注文をする / 招待する / 申し出をする, 受ける / 機嫌, 調子を聞く / 事物や所持品について短い意見を言ったり, 比較する / 日常生活用品, 価格をたずねる
- 身近, 決まった操作的なこと / 仕事, 余暇, 計画, 好きなもの, 嫌いなもの / 個人的な情報 / 日常的な必要性 / 習慣 / 日常の決まった作業 / 学習経験 / 以前の活動 / 予見可能な基本状況 / 日常的な生活上の交渉を行える語彙 / 社交的な短いやりとり / 簡単な日常的丁寧表現の挨拶

B1 レベル

- 簡単な理由, 説明をする / なぜ問題なのか, 何をすればいいのか比較対照する / 他人の見解に簡単なコメントがいえる / 返品, 苦情に対処する / 詳細な指示を与える, たずねる / ものの描写をする / 意見を述べる
- 自身に関するきまった, あるいは決まりきっていない事実にもとづいた蓄積された情報 / 詳細な指示 / 意見 / 要約 / 日常生活範囲内の殆んどの話題 / 家族 / 趣味 / 仕事 / 旅行 / 時事

上記の基準を概観すると, CEFR のレベル分けの主な基準の1つは言語機能であることが分かる。TUFSS 言語モジュールの会話モジュールも機能ベースのものであることから, 上記の基準が本研究でのレベル分けに適当なものであると判断される。従って, レベル分類の手順として, まず各会話ユニットの言語機能の観点から, 上記の基準を利用して, そのレベルを判定する。その後, 言語機能以外の観点からもそのレベルの確認を行い, 最終的なレベルづけを行う。

3-4. 分析結果

(1) 言語機能からのレベル設定

TUFSS 会話モジュールの言語機能 40 種類は, 上記の CEFR からの基準を用いると以下の表のように分類できる。

表. 言語機能からのレベル設定

A1	A2	B1
挨拶する	招待する	意見を述べる
さよならを言う	許可を求める	指示する
自己紹介する	手段をたずねる	助言する
謝る	状況を尋ねる	提案する

金額をたずねる	依頼する	要求する
時間をたずねる	程度をたずねる	理由を述べる
場所をたずねる	特徴をたずねる	禁止する
人を紹介する	能力をたずねる	比べる
好きな行動を述べる	ものをあげる	しなくともよいと言う
好きなものを述べる	予定を述べる	しなければならないと言う
数字をたずねる	経験をたずねる	条件をつける
感謝する	希望を述べる	妥協する
注意を引く		例をあげる
		しないでくれという
		順序をたずねる

(2) 言語機能以外の基準も加えたレベル設定

次に、言語機能以外の観点も加えた場合に、言語機能のみからのレベル設定が変化するかどうかを分析した。その際に基準とした観点として、『話題内容』『会話の相手』『文法レベル』『定型表現』の4つを設定した。これらの4観点の妥当性については次のように考察する。

上述したCEFRからのレベル分類基準は、主に言語機能の観点からのものであるが、その他の観点についての記述も見られる。第一として、「自分のこと」「日常的事」「個人的なこと」などといった『話題内容』についての記述が挙げられる。日常的で私的な内容から非日常的で公的な内容へと、客観的なレベル分けの基準が設定できることから、この観点を採用する意義は認められるだろう。第二に、CEFRからの基準の中に、「社会的なやりとり」といったような相手との距離に焦点を当てた記述が見られる。従って、『会話の相手』という観点も、CEFRベースのものであることから、妥当な観点であると判断できるだろう。

『文法レベル』『定型表現』については、CEFRで強調されている観点ではない。しかしながら、本研究で扱っている会話モジュールが初級学習者を対象としていることから、英語の初級学習者の学習事項を整理する目的で、最も客観性がありそして汎用性の高いものと言える「中学校学習指導要領」を参照した。その結果、現行の中学校学習指導要領（文部省、1998）の記述は、文法、語彙、表現といった言語的な要素が多くを占めており、それらの項目が初級学習者の学習事項の分類には不可欠であることがわかった。そこで、それらの項目から、『文法レベル』と『定型表現』という2観点を設定し、本研究でのレベル分類の基準とした。

『話題内容』『会話の相手との距離』『文法レベル』『定型表現』の4観点も含めて、キーセンテンスをレベル分類したところ、15文が言語機能からのレベル設定と異なるものと評価された。その理由づけを以下に行う。

A1にレベル変更された文

言語機能	キーセンテンス	元のレベル	変更理由
ものをあげる	Here.	A2	定型表現
ものをあげる	This is for you.	A2	定型表現

【備考】中学校学習指導要領（文部省，1998）では，excuse me, I see, I'm sorry などが中学生（初級学習者）の言語材料の例として挙げられていることから，Here.や This is for you.もほぼ同等なレベルと判断し，A1のレベルとした。

A2にレベル変更された文

言語機能	キーセンテンス	元のレベル	変更理由
意見を述べる	Yeah, you're right.	B1	定型表現
意見を述べる	That's a good idea.	B1	定型表現

【備考】You're right.や That's a good idea.は定型表現と判断して1つレベルを下げた。

言語機能	キーセンテンス	元のレベル	変更理由
提案する	Let's go to the mountains this weekend.	B1	話題内容
提案する	Well, how about going to the beach?	B1	話題内容

【備考】「提案する」という言語機能は，公的な場面で達成されることも多いため，この機能自体はB1のレベルに設定した。しかしながら，上記の2つの英文内容は，かなり私的な話題内容であるため，1つレベルを下げた。

言語機能	キーセンテンス	元のレベル	変更理由
禁止する	Also, we can't watch TV after 8:00.	B1	文法レベル
しないでくれと言う	And you shouldn't play in the hall.	B1	文法レベル
助言する	You should go to Kyoto.	B1	文法レベル

【備考】中学校学習指導要領（文部省，1998）では，扱うべき語として100語が設定されているが，can と should はその中に含まれているため，かなり初期段階での学習項目と判断して，1つレベルを下げた。

言語機能	キーセンテンス	元のレベル	変更理由
指示する	Just start over.	B1	文法レベル
しないでくれと言う	Don't play in the school building.	B1	文法レベル
要求する	Please clean up your desk right away.	B1	文法レベル

【備考】中学校学習指導要領（文部省，1998）では，肯定及び否定の命令文の扱いが中学校段階に位

置づけられていることから、かなり初期段階の文法事項と判断し、1つレベルを下げた。

B1 にレベル変更された文

言語機能	キーセンテンス	元のレベル	変更理由
謝る	I have to apologize to all of you.	A1	会話の相手
ものをあげる	I'm glad you like it.	A2	会話の相手
許可を求める	Mrs. McDonald, is it alright if I change my report topic from dinosaurs to pirates?	A2	会話の相手

【備考】「謝る」という言語機能自体のレベルはA1, 「ものをあげる」と「許可を求める」はA2であるが、それぞれ会話の相手の立場や心情を考慮した上で、各表現を用いていることがわかる。その結果、複雑な言い回しや表現を用いることとなっているため、レベルを上げた。I have to apologize to all of you.については、かなり難易な語とその語法を選択することになったため、2つレベルを上げた。

その他のキーセンテンスについては、言語機能の観点から設定されたレベルと同様のものであった。すべてのキーセンテンスについてのレベル分類は、資料を参照されたい。

4. 考察とまとめ

CEFR が個別言語を対象としていないため、CEFR の記述が抽象的であることは本研究の制約でもあった。従って、会話モジュールのキーセンテンスのレベル分け作業では、CEFR からの基準があったが、その基準に記述がない機能については、調査者の恣意的な判断が避けられなかった。その結果、CEFR ではあまり重点的に記述が行われていない文法や定型表現などという評価基準も設定する必要が生じ、完全に CEFR に依存したレベル分類ができなかった。しかしながら、部分的には調査者の主観的判断に委ねられたが、CEFR からの分類基準を用いると比較的容易にレベル分けが可能であったキーセンテンスも多かった。これは、CEFR には、言語機能についての記述が存在することや、会話の話題や相手の立場などについて記載がなされていることなどに起因するであろう。従って、本研究で、CEFR と TUFSS 言語モジュールを関連させる意義は部分的にでも認められたと言えるであろう。

今後の課題として、会話ユニット全体のレベル分類をすることが挙げられる。本研究では、各ユニットのキーセンテンスのみについてのレベル分類を行った。会話ユニット全体でのレベル分けを行った場合、必ずしもキーセンテンスのレベルと合致するとは限らないであろう。本研究では会話のトピックや会話の相手との関係などについても CEFR の記述より引き出し、分類基準に組み込んだが、会話内容や相手との関係というのは、1文単位で判断できるものではなく、ユニット全体に深く関連するものである。従って、今後は、キーセンテンスのみに焦点を当てるのではなく、会話ユニット全体のレベル分類を行う必

要があると思われる。その際には、該当するレベルも A1, A2, B1 の 3 つではなく、B2 以上のレベルも想定する必要性が生じるであろう。本研究ではキーセンテンスのレベルを半ば強引に A1, A2, B1 の 3 つに分類した経緯があるが、今後は CEFR のレベルのどの範囲まで TUFSS 言語モジュールが到達しているのかを探る必要がある。

別の課題としては、レベル分けの基準を精緻化するとともに、音声データを利用したレベル分けも行う必要が挙げられる。TUFSS 言語モジュールは、動画・音声も利用したマルチメディア教材であり、会話の分析を目的としているのであれば、この音声プログラムを利用する意義は高い。CEFR の Global Scale を見ても、例えば、A1 の記述には、*Can interact in a simple way provided the other person talks slowly and clearly and is prepared to help.* というものがある。音声教材における発話のスピードや明確さなども、CEFR の枠組みと関連づけをするのであれば調査対象になり得るであろう。別の TUFSS 言語モジュールである発音モジュールにおいては、会話スキットを全部一度に通して聴く場合はナチュラルスピードで、また「一文ごと」「単語ごと」の聴き取りは、ゆっくり目の明瞭な読み方を推奨している(阿部, 2004)。会話モジュールではどのような配慮がなされているかを調査する意義は高いと思われる。

また、CEFR と会話モジュールの関連づけの可能性が認められることから、文法や語彙などその他の TUFSS 言語モジュールと CEFR の関連づけも行い、その可能性を検証し、TUFSS 言語モジュールの有効価値を高めることができるとよいだろう。

本研究では、CEFR の枠組みを TUFSS 言語モジュールの会話モジュールと関連づけを試みたが、CEFR が個別言語を対象としておらず記述が抽象的であるにも関わらず、キーセンテンスという 1 文単位でのレベル分類はある程度は良好に達成できたのではないか。今後は、上述された課題も含めて達成されることを期待する。

【参考文献】

- 安部一哉 (2004) 「TUFSS D モジュール開発『試作版』—サイトの構築と他モジュールとの関連性」『言語情報学研究報告 1 TUFSS 言語モジュール』, 東京外国語大学大学院地域文化研究科 21 世紀 COE プログラム「言語運用を基盤とする言語情報学拠点」
- 工藤洋路・小林善知・根岸雅史 (2006) 「ヨーロッパにおける CEFR (Common European Framework of Reference for Languages) を利用した言語政策」『言語情報学研究報告 10 教材開発・評価・第二言語習得』, 東京外国語大学大学院地域文化研究科 21 世紀 COE プログラム「言語運用を基盤とする言語情報学拠点」
- 文部省 (1998) 『中学校学習指導要領』文部省
- Council of Europe (2001) *Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Little, D. and Simpson, B. L. (2004) “Using the CEF to Develop an ESL Curriculum for Newcomer Pupils in Irish Primary Schools.” In K. Morrow (ed.), *Insights from*

【資料】キーセンテンスレベル分類表

レベル A1		
CEFR のレベル A1 判定規準として記述されている能力記述文から一部抜粋 〔言語行為の目的, 機能, 話題, 場所, 語彙等に関連する事項〕		
基本的な挨拶をする / いとまごいの表現を使う / 元気かどうか聞く / 自分や他人を紹介する / どこに住んでいるか, だれと知り合いか, 持ち物などの個人情報について質問したり答えたりする / 直接必要のある分野や身近な話題に関して簡単な意見を言う / 数, 量, 価格, 時間を扱う / 特定の具体的な状況に関して基本的な語彙や言い回しのレパートリーを持つ		
機能	例文	文型・表現 (言語構造)
挨拶する	Good morning, Mrs. McDonald. (おはようございます, マクドナルド先生。)	Good morning, ...
挨拶する	How are you, Mrs. McDonald? (マクドナルド先生は怎么样了?)	How are you, ...?
感謝する	Thank you very much. (本当にありがとうございました。)	Thank you (very much).
感謝する	Also, thank you for the pictures. (それから, 写真をありがとうございました。)	Thank you for
注意をひく	Oh, wait! (あっ, ちょっと待って!)	Oh, wait!
注意をひく	Excuse me! (すみません!)	Excuse me!
自己紹介する	Hi, my name is Kei. (どうも, ぼくの名は圭です。)	Hi, my name is
自己紹介する	Nice to meet you. (みなさんにお会いできてうれしいです。)	Nice to meet you.
謝る	I'm so sorry. (ほんとうにごめんなさい。)	I'm sorry.
ものをあげる	Here. (どうぞ。)	Here.

ものをあげる	This is for you. (これは君に。)	This is for you.
さよならを言う	Goodbye, Julie, take care. (さよなら, ジュリー, 気をつけてね。)	Goodbye, ..., take care.
さよならを言う	So, see you there then. (それじゃ, そのときに会いましょう。)	So, see you there then.
さよならを言う	Bye for now. (とりあえずのさよならね。)	Bye for now.
金額についてたずねる	How much is this map of Australia? (このオーストラリアの地図はいくらですか?)	How much is ...?
時間についてたずねる	What time is it? (いま何時?)	What time is it?
時間についてたずねる	What time do we go to bed? (ねえ, 何時に寝るの?)	What time do we + V?
数字についてたずねる	What's your zip code? (郵便番号は何番?)	What's ...?
場所についてたずねる	Yeah. Hey, where are all the big animals? (うん. ねえ, 大きい動物はどこにいるの?)	Where is/are ...?
好きなものについて述べる	I love it! (大好き!)	I love
好きな行動について述べる	I like reading American comics. (アメリカのマンガを読むのは好きなんです。)	I like + V-ing.
好きな行動について述べる	Yeah, watching baseball is pretty fun. (ええ, 野球を見るのはとても楽しいですね。)	V-ing is (pretty) fun.
人を紹介する	Mrs. McDonald, this is my friend, Heinrich. (マクドナルド先生, こちらがぼくの友達のハインリックです。)	..., this is ...
人を紹介する	Heinrich is a student at the International School. (ハインリックはインターナショナルスクールの生徒なんです。)	... is ...
人を紹介する	She's from England. (イングランドから来てるんだ。)	...'s from

レベル A2

CEFR のレベル A2 判定規準として記述されている能力記述文から一部抜粋
〔言語行為の目的, 機能, 話題, 場所, 語彙等に関連する事項〕

指示を要求する・与える / 価格をたずねる / 買い物する / 食事の注文をする / 招待する / 申し出をする, 受ける / 機嫌, 調子を聞く / 事物や所持品について短い意見を言ったり, 比較したりする / 社交的な短いやり取りを交わす / 工作中や自由時間にすることをたずねる / 何をすべきか, どこに行くかを話して会う約束をする / 店, 郵便局, 銀行で簡単な取引をする / 旅行や公共の移動手段, バス・鉄道・タクシーなどについての簡単な情報を得る / 簡単な言葉でどのように感じているかを表現する / 毎日の周りの事柄について / 幅広い説明をする / 過去の行動や個人的な体験を話す / 好きなもの嫌いなものを説明する / 友人との議論で他の人の意見に賛成や反対をする

機能	例文	文型・表現(言語構造)
経験についてたずねる	Have you ever been there? (行ったことがあるの?)	Have you been to ...?
経験についてたずねる	Four times? (4回?)	... times?
予定を言う	Yeah, I am going to spend time with Julie, my friend from America. (うん, アメリカから来る友だちのジュリーと過ごす予定なんだ。)	I am going to + V.
程度についてたずねる	How far is it? (どのくらい遠いの?)	How far is ...?
程度についてたずねる	How far is his office from your house? (家から会社までどれくらいかかるの?)	How far is ... from ... to ...?
手段についてたずねる	What should I use for the sky? (空は何を使ったらいいかな?)	What should I use for ...?
手段についてたずねる	What about the flowers? (花はどうする?)	What about ...?
能力についてたずねる	So, you can speak Japanese and English? (それじゃ日本語と英語が話せるの?)	You can + V?
能力についてたずねる	Can you speak any other language? (ほかの言葉は話せるの?)	Can you + V?
特徴についてたずねる	You're a student here, aren't you? (君はこの生徒だよ?)	You're ..., aren't you?
特徴についてたずねる	Do you go to a Japanese school? (日本の学校に通ってるの?)	Do you go to ...?
意見を述べ	Yeah, you're right.	Yeah, you're

る	(そうだね, 君の言うとおりで。)	right.
意見を述べる	That's a good idea. (それはいい考えだ。)	That's a good idea.
状況についてたずねる	So, how are your parents? (それで, ご両親はどう?)	How is/are ...?
状況についてたずねる	How about your sister? (妹さんは?)	How about ...?
提案する	Let's go to the mountains this weekend. (今週末, 山に行こうよ。)	Let's + V.
提案する	Well, how about going to the beach? (そうだなあ, 海に行くのはどう?)	How (What) about V-ing?
依頼する	Can you lend me those? (君のをかしてくれる?)	Can you + V?
依頼する	Kei, will you pass me the glue? (圭, のりを取ってくれる?)	Will you + V?
許可を求める	May I borrow that book then? (そしたら, あの本を借りてもいいですか。)	May I + V?
許可を求める	Could I turn it in after summer vacation? (夏休み後に提出してもいいですか?)	Could I + V?
禁止する	Also, we can't watch TV after 8:00. (それから, 8時以降はテレビを見ちゃいけない。)	We can't + V.
指示する	Just start over. (もう一回最初からやったらいいよ。)	Just + V.
しないでくれと言う	And you shouldn't play in the hall. (ろうかで遊んではいけませんよ。)	You shouldn't + V.
しないでくれと言う	Don't play in the school building. (校舎の中で遊んではいけません。)	Don't + V.
招待する	Would your family like to come to Japan this summer? (お宅のご家族でこの夏に日本に来るのはどうかな, って。)	Would ... like to come ...?
招待する	Do you want to come to Japan this summer? (この夏日本に来たい?)	Do you want to come ...?
招待する	How about coming in July? (7月に来るのはどう?)	How about coming ...?
助言する	You should go to Kyoto.	You should +

	(京都に行ったらいい。)	V.
要求する	Please clean up your desk right away. (今すぐ机の上を片付けなさい。)	Please + V.
希望を述べる	Yeah, I'd like to become an artist. (うん、芸術家になりたいんだ。)	I'd like to + V.
希望を述べる	I want to travel around the world. (私は世界中を旅して回りたいの。)	I want to + V.

レベル B1		
CEFR のレベル B1 判定規準として記述されている能力記述文から一部抜粋〔言語行為の目的、機能、話題、場所、語彙等に関連する事項〕		
<p>経験、できごと、夢、希望、野心を説明する / 意見や計画の理由、説明を短く述べる 日常生活での問題に柔軟に対応する / 驚き、幸せ、悲しみ、興味、無関心などの感情を表現する / 会話や議論を続ける / 友人とのくだけた議論で個人的な見方や意見を示したり要求したりする / 他人の見解に簡単なコメントを述べる / 返品する / 苦情を言う / 詳細な指示を与えながらやり方を説明する / 信念、意見、賛成、反対を丁寧に表現する / 日常生活範囲内の殆どどの話題の述べたいことを述べられる語彙を持つ</p>		
機能	例文	文型・表現（言語構造）
謝る	I have to apologize to all of you. (みんなにおわびを言わなくっちゃ。)	I have to apologize to
人にものをあげる	I'm glad you like it. (喜んでもらえてうれしいよ。)	I'm glad you like
意見を述べる	I think you should get her a book. (彼女には本をあげるのがいいと思うよ。)	I think
順序について述べる	First, put the pancake mix in the bowl. (はじめに、ホットケーキミックスをボウルに入れる。)	First,
順序について述べる	Then, put two eggs and some milk into the bowl. (それから、卵 2 個と牛乳を少し、ボウルに入れる。)	Then,
順序について述べる	After that, mix it all together. (そのあとは、全部をまぜ合わせるの。)	After that,
順序について述べる	Finally, we just wait until it's ready. (最後は、出来上がるまで待つだけよ。)	Finally,
条件をつけ	What do you want to do if the weather is bad?	if ...?

る	(もし天気が悪かったらどうしたい?)	
条件をつける	If it rains, let's do something else. (もし雨が降ったら、何かほかのことをしよう。)	If ..., let's + V.
比べる	Yeah, he's smaller than a human. (そう、人間よりも小さい。)	... is ...er than
比べる	He's the coolest superhero I've ever seen. (今までに見た中でいちばんかっこいいスーパーヒーローよ。)	... is the ..est ... I've ever seen.
比べる	Yep, he's the best. (でしょ、彼は最高なんだよ。)	... is the best.
理由を述べる	Because I'm watching this video. (だってこのビデオを見てるから。)	Because
例をあげる	And they sell other things, too, for example, sheets, blankets, pillows. (それからほかのものも売ってる。たとえば、シーツ、毛布、まくらとか。)	for example...
例をあげる	They sell lots of things, like buckets, knives, tools, and ladders. (いろんなもの、たとえばバケツ、ナイフ、工具、はしごとか。)	like...
妥協する	OK. But if I ride the Ferris Wheel again, will you go on the rollercoaster after that? (いいけど、でももう一度大観覧車に乗ったら、そのあとジェットコースター)	If ..., will you + V?
許可を求める	Mrs. McDonald, is it alright if I change my report topic from dinosaurs to pirates? (マクドナルド先生、ぼく、レポートの題を恐竜から海ぞくに変えてもかまわないですか?)	..., is it alright if I + V?
しなければならない	When you go into the house, you have to say "ojamashimasu"; and when you meet his parents, you have to say "hajimemashite." (家に入るときには「おじゃまします」って言わないといけないし、彼のご両親に会ったら「はじめまして」って言わないと。)	When ..., you have to + V.
しなければならない	You should try to use them. (使おうとしたほうがいいよ。)	You should + V.
禁止する	Well, first, you mustn't wear shoes in the house.	You mustn't +

	(えー, まず, 家の中では靴をはかないこと。)	V.
指示する	First, press the red button and run over there. (はじめに, 赤いボタンを押してそこまで走る。)	First, ...
しないでくれと言う	Would you mind not making so much noise? (そんなにうるさくしないでくれる?)	Would you mind not V-ing?
しなくともよいと言う	No, you don't have to. (ううん, しなくていいよ。)	You don't have to + V.
しなくともよいと言う	No, you don't need to. (ううん, しなくてもいいよ。)	You don't need to.
助言する	If you go there, you should visit the many temples and shrines. (もし京都に行ったら, たくさんあるお寺や神社を訪ねるといいよ。)	If ..., ... should + V.
助言する	But if you want to visit Kyoto then, your family had better make reservations now. (でも, そのころに京都に行きたかったら君のご家族はいまから予約をしたほうがいいよ。)	If ..., ... had better + V.
要求する	First, I want you to throw away that paper. (まず, その紙を捨ててちょうだい。)	I want ... to + V.